

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

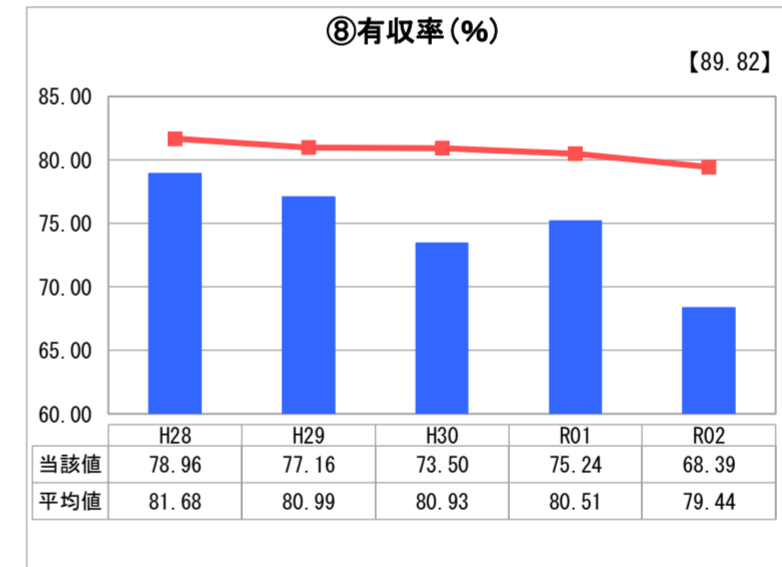
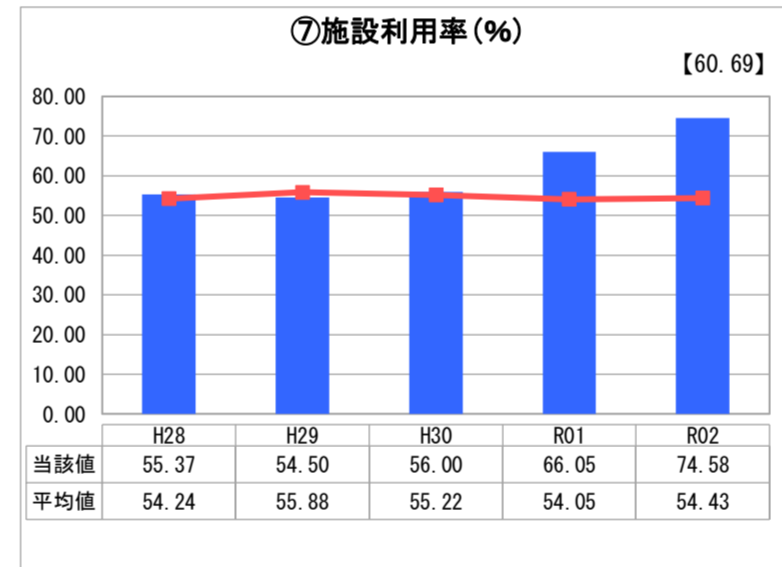
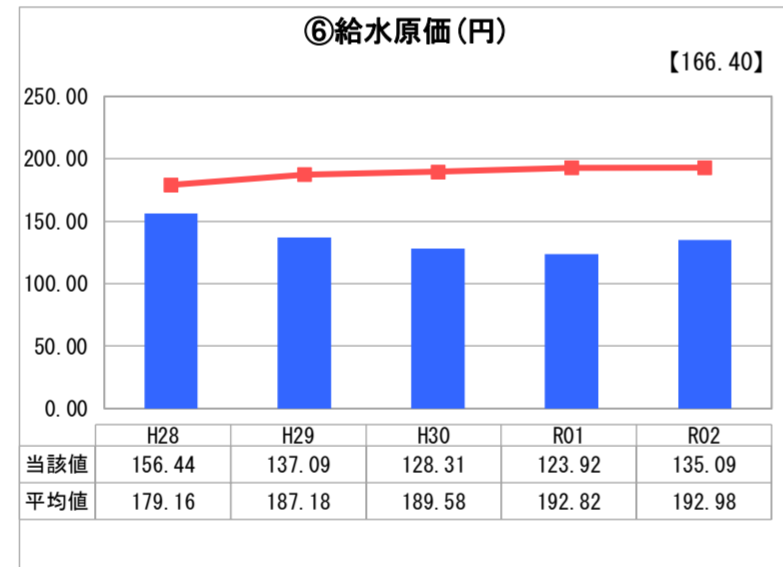
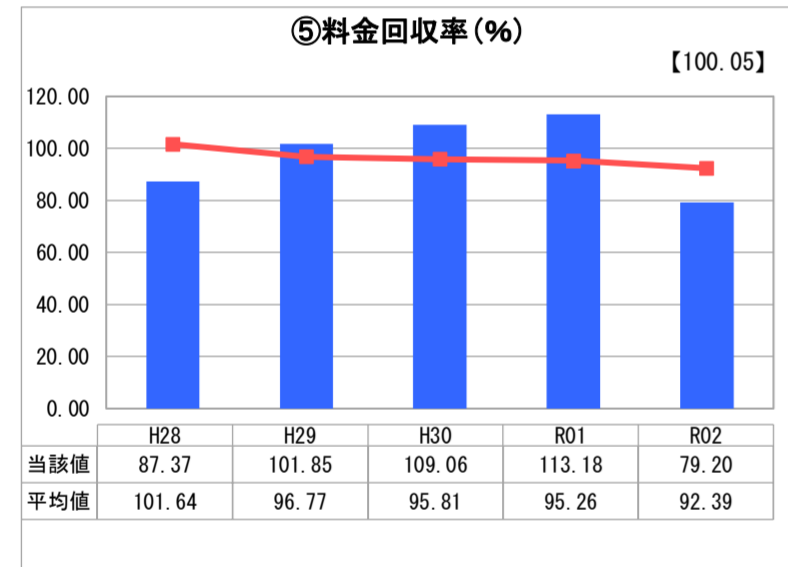
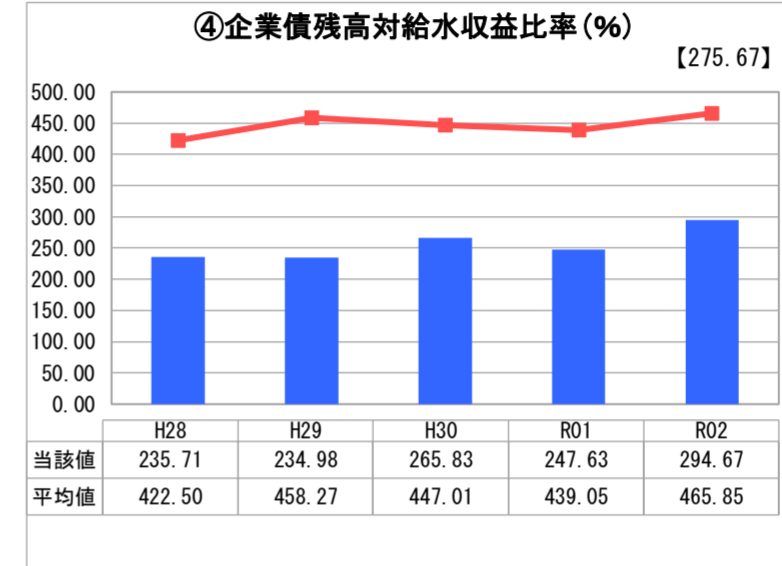
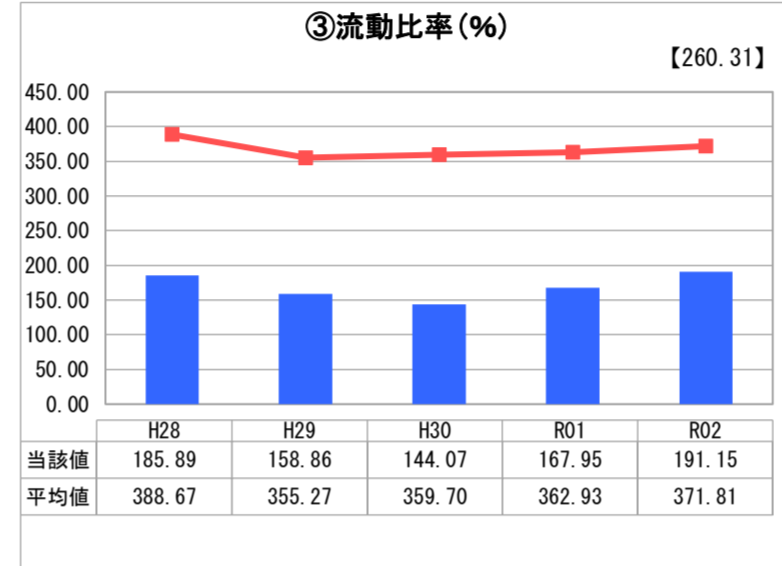
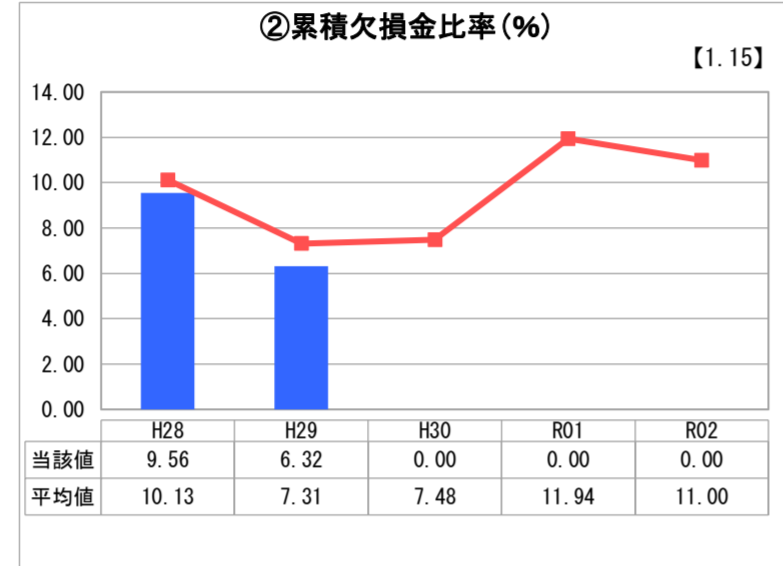
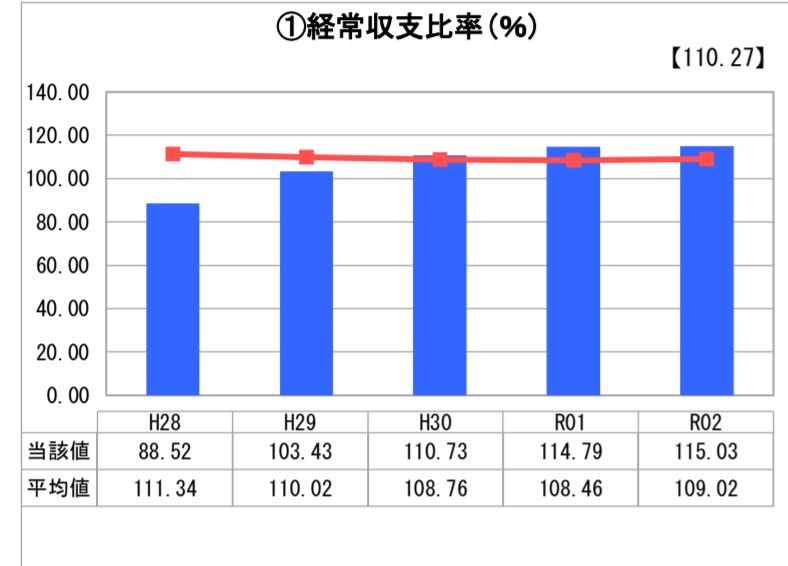
和歌山県 湯浅町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	56.26	99.80	2,514	

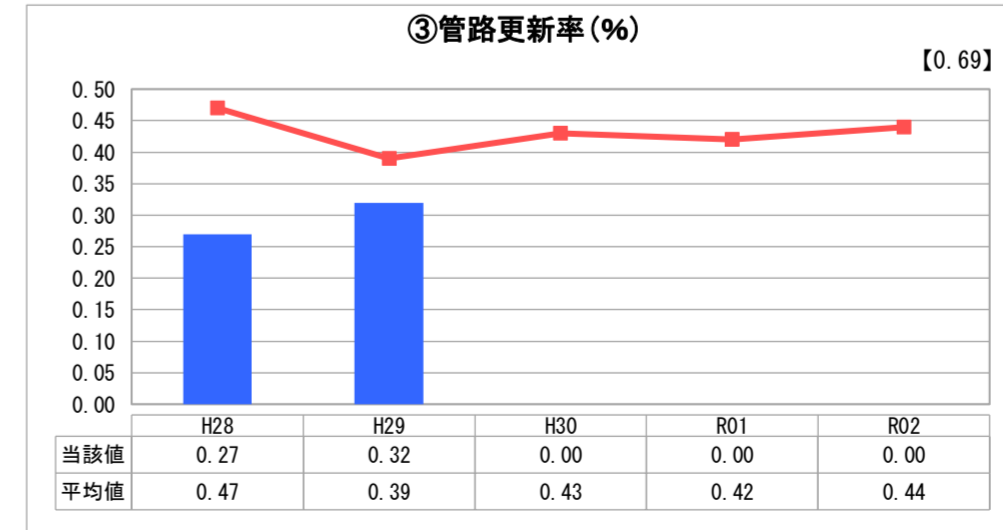
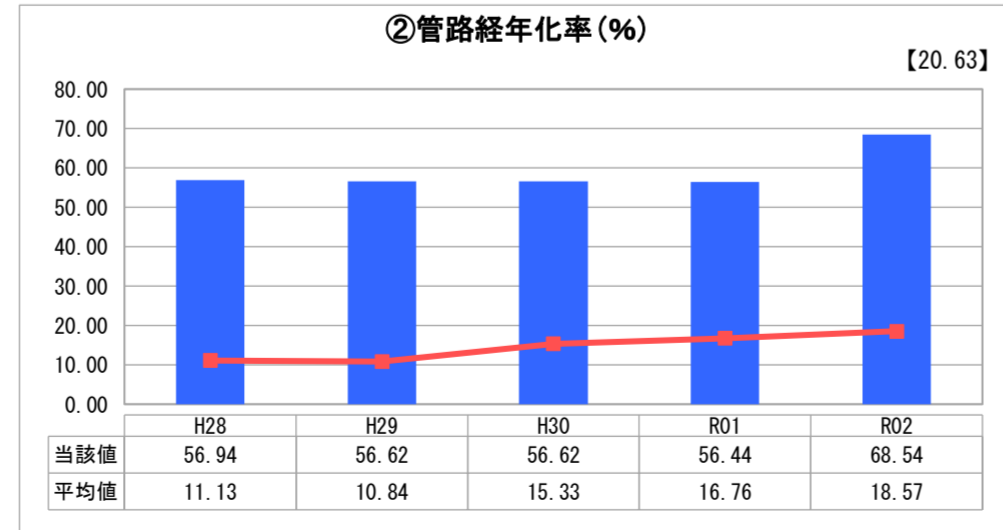
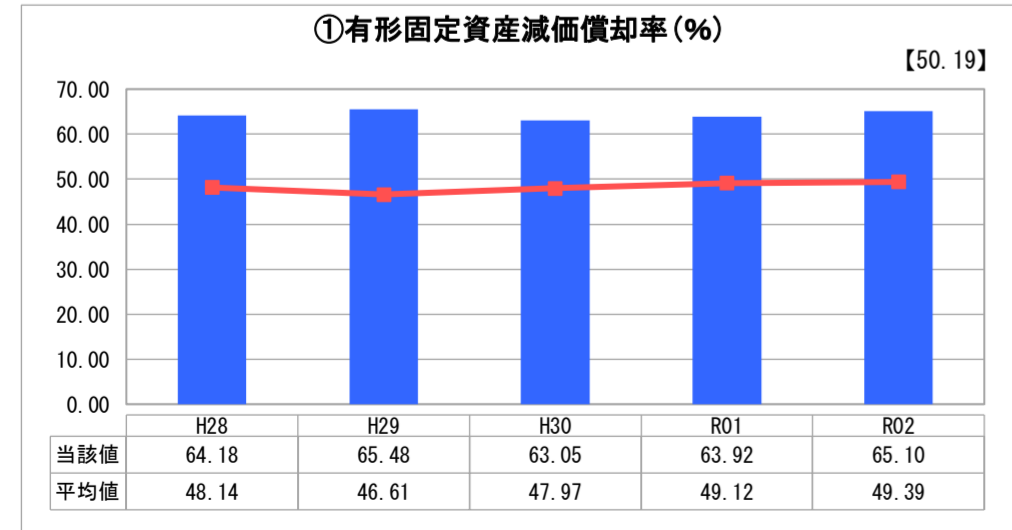
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,668	20.79	561.23
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
13,807	23.54	586.53

<b>グラフ凡例</b>
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、平均値を上回り増加傾向にあるが、老朽施設・管路の更新や増加が見込まれる修繕費等の財源確保のため、更なる費用の削減、経営状況の改善が必要である。

累積欠損金比率については、平成30年度において未処理欠損金は解消され、本年度も黒字になったため累積欠損金比率については、昨年同様0.00%で推移している。

流動比率については、本年度も100%を超えているものの類似団体に比べ低い状況である。今後、管路・施設更新による起債の増加が見込まれるため、注意が必要である。

企業債残高対給水収益比率については、類似団体より低く推移しているが、管路及び施設の計画的な更新を進めていくため、起債の借入が増加していくと予想され注意が必要である。

料金回収率については、令和2年度、新型コロナウイルス対策として基本料金の免除を実施し、免除分を他会計補助金(営業外収益)として計上したため、給水収益が減少し当指標が低下した。令和3年度も引き続き減免を実施する。

給水原価については、類似団体より下回っているが、今後、建設改良費の増加に伴い減価償却費及び支払利息等、経常費用の増加が見込まれるため注意が必要である。

施設利用率については、対前年度8.53%増加しているが、給水人口の減少に伴い当指標の低下が見込まれるので、浄水施設の利用方法を検討していきたい。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率及び管路経年率については上昇傾向が続いており、平均値を大きく上回っていることから、適正な規模の投資が実施できていない状況である。ただし、流動比率が低いことから、更新事業の財源が十分ではないとも考えられるため、料金改定を含めた財源確保について検討する必要がある。

## 全体総括

法定耐用年数以上の資産が多く、今後、健全経営を維持するためにも管路及び施設設備等の更新が必須である。令和2年度策定の基本計画及び経営戦略を基に更新を実施していくためには、料金改定を含め財源確保について検討していく必要がある。